

令和5年度 学校評価集計結果（児童）

4：とてもそう思う 3：そう思う 2：あまりそう思わない 1：まったくそう思わない

	評価項目	2022評定	2022 %	2023評定	2023 %
1	学校(がっこう)や学級(がっきゅう)は楽(たの)しいですか。	3.1	78%	3.4	85%
2	学校行事(がっこうぎょうじ)にお家(うち)の方(かた)と楽(たの)しく参加(さんか)していますか。	3.2	80%	3.4	84%
3	授業(じゅぎょう)で自分(じぶん)の考(かんが)えや思(おも)ったことを発表(はっぴょう)することができますか。	3.1	78%	2.8	69%
4	学校(がっこう)や学級(がっきゅう)のきまりを守(まも)っていますか。	3	75%	3.3	82%
5	思(おも)いやりを持(も)ってお友達(ともだち)を大事(だいじ)にしていますか。	3.1	78%	3.6	90%
6	いじめや困(こま)ったことがあったときは、先生(せんせい)や家族(かぞく)、お友達(ともだち)に相談(そうだん)していますか。	3	75%	3.2	80%
7	友(とも)だちの良(よ)いところを見(み)つけたら、伝(つたえ)たり、自分(じぶん)も頑張(がんば)ることができましたか。	3.1	78%	3.2	80%
8	授業(じゅぎょう)は、わかりやすく楽(たの)しいですか。	3	75%	3.3	82%
9	学習活動(がくしゅうかつどう)や行事(ぎょうじ)に積極的(せっきよくてき)に取(と)り組(く)むことができましたか。	3	75%	3.4	85%
10	家庭学習(かていがくしゅう)を毎日(まいにち)していますか。	3.2	80%	3.2	81%
11	係活動(かかりかつどう)や当番活動(とうばんかつどう)はしっかりできましたか。	3.2	80%	3.6	90%
12	給食時間(きゅうしょくじかん)は、好(す)き嫌(きら)いをせずに、きまりを守(まも)って楽(たの)しく食(た)べていますか。	3.2	80%	3.1	79%
13	早寝(はやね)・早起(はやお)き・朝(あさ)ご飯(はん)をしっかり守(まも)っていますか。	3.1	78%	3.2	81%
14	将来(しょうらい)の夢(ゆめ)を持(も)っていますか。	3.1	78%	3.3	84%
15	困(こま)ったことがあった時(とき)、自分(じぶん)で考(かんが)えて判断(はんだん)し、解決(かいけつ)することができますか。	3	75%	3.2	80%
16	自分(じぶん)からすすんで、明(あか)るいあいさつができていますか。	2.6	65%	3.2	79%
17	ふわふわ言葉(ことば)をたくさん使(つか)っていますか。	2.8	70%	3.2	81%
18	友(とも)だちや先生(せんせい)の話(はなし)を最後(さいご)まで、しっかりと聞(き)くことができますか。	2.8	70%	3.5	87%
19	先生(せんせい)は、あなたのがんばったことや良(よ)いところを見(み)つけて、ほめてくれますか	3	75%	3.4	84%
20	自分(じぶん)のことが好きですか。	3.2	80%	3.1	78%
21	年生 授業を振り返り、学習したことがわかるとともに、新たな問いを持つことができた。	3.3	83%	3.1	78%
22	以 総合の学習で進んで考えたり活動することができた。	3.3	81%	3.3	82%
23	上 総合の学習で自分の課題を調べ、まとめたり発表することができた。	3	75%	3.1	77%
24	が 学習した英語を、生活のどの場面で使えばよいかわかる。	3.2	80%	3.1	78%
25	回 ローマ字を書くことができる。	3.4	85%	3.3	82%

【結果・分析・対応策】

- ・全体的に平均が1つの項目を除いて3.0以上となっており、で肯定的な意見が多く、比較的学习面や生活面で頑張っていると感じている児童が多くいると考えられる。
- ・項目3は「2.8」となっており、昨年より0.3減少している。一方、項目18については「3.5」となっており昨年より0.7増加している。しかしながら、約1割は否定的な意見がいたことから「話す・聞く」については、まだ課題があると考えられる。本校の学力向上計画にある重点取組1、2を確認し、実践を通して課題解決に取り組む。
- ・項目6では、平均が「3.2」となっており、昨年より「0.2」増加しているが、約2割の児童は否定的な意見となっている。このことから、学級で児童は、悩みや問題が起きた時に相談できないで悩んでいる児童がいると考えられる。学校職員・関係機関で協力しながら毎月のいじめアンケート等を活用して実態把握に努め、児童・保護者に寄り添いながら児童支援を行い、解消に向けて取り組んでいく。
- ・項目8については、「3.3」となっており、昨年より「0.3」増加している。先生方は、日頃から教材研究に努めており、今後も「分かりやすい授業」を展開できるよう授業改善に努め取り組んでいく。
- ・項目19については「3.4」となっており、昨年より「0.4」増加しているが、項目20では昨年より「0.1」減少している。これは、児童の自己肯定感が低くなってしまったと考えられる。日頃から児童には自信を持たせられるような声掛けに努めるとともに、児童の良さをさらに引き出していけるよう児童理解に努めていく。
- ・項目21では、「3.1」となっており、昨年より「0.2」減少している。振り返りの充実を図るとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業づくりに取り組んでいく。

令和5年度 学校評価集計結果（保護者）

4：とてもそう思う 3：そう思う 2：あまりそう思わない 1：まったくそう思わない

	評 価 項 目	2022評定	2022 %	2023評定	2023 %
1	学校は、児童一人ひとりを大切にした教育活動を行っている。	3.1	78%	3.2	80%
2	学校は、校内の様子や学習状況等について、情報提供（お便り、学習参観、ホームページ、スクリレ等）を適切に行っている。	3.2	80%	3.4	85%
3	学校は、保護者や地域と連携を取り、教育活動の充実を図っている。	3.1	78%	3.3	82%
4	学校は「自ら学ぶ子」を育てている。（教育目標：知）	3	75%	3.1	77%
5	学校は「思いやりのある子」を育てている。（教育目標：徳）	3.1	78%	3.1	78%
6	学校は「健康でねばり強い子」を育てている。（教育目標：体）	3	75%	3.1	77%
7	学校は、子どものことについて、適切に相談に応じている。	3.1	78%	3.2	81%
8	学校は、確かな学力の定着をめざし取り組んでいる。	3	75%	3.1	77%
9	学校は、いじめや事故のない学校づくりに取り組んでいる。	3	75%	3.1	78%
10	学校は、災害時に児童の安全が確保できる取り組みをしている。	3.2	80%	3.3	82%
11	子どもは、学校に行くのが楽しいと言っている。	3.2	80%	3.1	79%
12	こどもは、授業がわかりやすいと言っている。	3.2	80%	3.1	78%
13	子どもは、当該学年の学習内容が定着している。	3.1	78%	3.1	78%
14	家庭では、望ましい生活習慣（早寝・早起き・早ご飯）の定着を図っている。	3.1	78%	3.1	77%
15	家庭では、家庭学習の時間を設定し、学習や音読のチェック（サイン等）をしている。	3	75%	3.0	74%
16	PTA活動には、積極的に参加するようにしている。	2.6	65%	2.8	70%
17	子どもは、自分から、元気なあいさつができています。	2.8	70%	2.8	69%
18	子どもは、ふわふわ言葉を普段からよく使っている。	2.8	70%	2.8	69%
19	子どもは、自己肯定感が（自分のことが好き）が育っている。	3	75%	3.0	75%
20	家庭では、子どもの良いところをたくさんほめている。	3.2	80%	3.1	79%

【結果・分析・対応策】

- ・今回の回答率は44%（256名回答）であった。全体の平均が「3.1」となっており、昨年より「0.1」増加している。本校の教育目標を理解し、日頃から授業改善や児童理解に努めている先生方の実践の成果だと考える。
- ・項目2については、昨年より「0.2」増加しており、ホームページを利用した発信やおたより等をスクリーンで配信できるようになったことによる効果であると考え。
- ・項目3と項目16については、それぞれ「0.2」増加しており、コロナ禍があげ、各種学校行事や学年PTA行事、PTA作業等が活発になり、保護者や地域、学校との関わりが多くなってきたことが考えられる。
- ・項目11と項目12はそれぞれ「3.1」となり、どれも「0.1」減っている。「学校が楽しい。」と「授業が分かる。」は比例の関係だと考えられる。本校では、校内研や小中一貫教育等の研修で授業改善に努めてきたが、引き続き児童の主体的な学習が引き出せるような学習指導や児童自身の学びや成長が実感できるような授業を日常化できるよう質的授業改善に努めていきたい。
- ・項目17については、保護者は昨年と評価は変わらないが、児童会アンケートをみると、昨年より「0.6」増加しており、児童は自分から進んであいさつをするようになってきたが、保護者と児童との認識のズレがあると考え。
- ・項目18については「2.8」となっており、率をみると1ポイント減っている。日常生活においての児童の言葉遣いが課題となるため、道徳の授業はもちろんのこと、学校の教育活動全体において言葉が発する影響について考えていく必要がある。

令和5年度 学校評価(教職員)

項目		番号	評 価 内 容	2022 評定	2022 %	2023 評定	2023 %
1	教育 課程	1	教育目標を理解し、その具現化に努めた。	3.2	80%	3.2	80%
		2	「計画・実行・評価」を行い教育計画の改善を図った。	3.1	78%	3.2	79%
		3	各教科・領域で示された標準授業時数を十分確保した。	3.5	88%	3.6	89%
2	組 織・ 校務	4	組織運営、各関係の連絡調整がうまく図られている。	3.1	78%	3.4	84%
		5	各種運営委員会や部会等が適正に行われ、計画や取り組み実践等の共通理解がなれている。	3.1	78%	3.5	87%
		6	「チーム真嘉比」としての同僚性が育まれ、同じ目標を目指した教育活動が図られている。	3.4	85%	3.5	87%
3	学年 学級	7	学年での共通実践やきまり等の共通理解を図り、効果的な指導を行った。	3.4	85%	3.4	86%
		8	支持的風土のある楽しい学級づくりに努めた。	3.4	85%	3.3	82%
4	学習 指導	9	児童一人一人の基礎学力の定着を目指した学習指導（学習意欲を高める、わかる授業）の工夫改善に努めた。	3.1	78%	3.4	84%
		10	スタンダードを心がけ、ふりかえりの充実、楽しい授業づくりができた。	3	75%	3.0	75%
		11	総合的な学習では、課題解決に必要な知識及び技能を身につけさせることができた。	3	75%	2.8	71%
5	道 徳・ 特活	12	道徳学習に意欲的に取り組めるような授業づくりに努めた。	3.1	78%	3.0	75%
		13	児童主体の話し合い活動の充実にも努めた。	2.9	73%	3.1	76%
		14	学級での役割や取り組みに児童が主体的に参画し、協力し合えるように取り組んでいる。	3.2	80%	3.1	76%
6	キャ リア	15	学年の発達段階に応じて、計画的、系統的に全教育活動を通してキャリア教育を指導している。	3	75%	3.3	82%
		16	キャリア教育を基盤に、日々の授業実践や学期のふりかえり等をおこない、児童のキャリア発達を促すことができた。	3	75%	3.1	78%
7	生活 指導	17	気になる児童には、積極的に声かけや教育相談をしている。	3.4	85%	3.4	84%
		18	不登校やいじめに対し学年や管理職と相談しながら組織として対応している。	3.5	88%	3.5	88%
		19	問題行動に関する情報は全職員で共通理解を図っている。	3.2	80%	3.4	84%
8	特別 支援 教育	20	特別支援教育は全職員が共通理解をし、連携・協力して児童の指導や対応にあたっている。	3.2	80%	3.2	80%
		21	特別な支援を要する児童への共通理解が図られ、適切に個別支援を行っている。	3.2	80%	3.1	78%
		22	学校は、特別支援教育の充実を目指し、関係機関と情報交換や連携を図っている。	3.2	80%	3.3	83%
9	保 健・ 安全	23	学校保健計画に基づき、保健指導、健康教育に取り組んでいる。	3.4	85%	3.4	84%
		24	学校安全計画に基づき、安全教育を確実に実施している。	3.3	83%	3.4	84%
		25	危機管理マニュアル（教育計画）に基づいた、緊急事態への対応について理解している。	3.3	83%	3.3	83%
10	校内 研学 推	26	主体的・対話的で深い学びに即した授業改善に取り組み、児童の思考力・判断力・表現力を伸ばすことができた。	3.1	78%	3.0	75%
		27	学力向上推進計画を基に、全職員が学力向上を図る取り組みを推進している。	3.3	83%	3.2	79%
11	施 設 設備	30	教育活動が十分できるよう施設・設備が整っている。	3.1	78%	2.7	67%
		31	校舎内外の施設・設備の点検を定期的に行い、適切な安全管理をしている。	3.2	80%	3.6	91%
12	家 庭 地域	32	家庭や地域と連携・協力しながら、教育活動を進めている。	3.2	80%	3.4	84%
		33	保護者、地域住民から寄せられた意見や要望に対して、学校の改善に取り組んでいる。	3.3	83%	3.5	88%
13	情報	34	学校の教育活動やお知らせ等について公文やメール、HP等で速やかに伝達されている。	3.5	88%	3.8	96%
14	一時 徹 底・ 共通 実践 事項	35	子どもたちの主体的なあいさつの徹底に努めた。	3	75%	3.2	80%
		36	子どもたちのふわふわことばの定着に努めた。	3	75%	3.4	86%
		37	子どもたちの“聴く力”の育成に努めた。	3.2	80%	3.4	84%
		38	子どもたちの自尊感情の向上に努めた。	3.3	83%	3.4	86%
		39	子どもたちへの“勇気づけとボイスシャワー”を行うことができた。	3.2	80%	3.5	88%
		40	チーム真嘉比の一員として、楽しい学校づくりに参画することができた。	3.3	83%	3.5	88%

【結果・分析・対応策】

- ・質問項目40中38項目において肯定的な意見が見られた。また、項目1は「3.2」となっており、学校教育目標を意識した実践に取り組んでいると考える。このことから、先生方が日々の教育実践で学校教育目標の実現に向けての共通実践事項や各教科・領域の目標達成に向けた授業改善や児童支援に取り組むことができていると考える。引き続き本校の学校教育目標の実現に向けて指導をお願いしたい。
- ・項目12と14については、それぞれ「0.1」減少している。道徳については、年間指導計画に基づき計画的に指導するとともに、学校教育活動全体において道徳的判断力・実践力を育成していく。また、特別活動については、学級会を計画的に行うとともに、学級活動や児童会、委員会活動を通して勤労・奉仕の心を育成していく。
- ・項目26と27については、0.1減少している。今年度は学推や校内研で「自己肯定感を高め、自他(互い)を大切にできる子どもの育成」をテーマのもと、授業づくりや学習を支える力の育成に努めてきた。しかし、減少していることから、学力向上推進の取り組みが不十分であったことがわかる。この要因として、共通実践事項は取り組んでいるが、定着状況や達成状況の見取りが不十分であったと考えられる。次年度は、定着状況を確認するなどPDCAサイクルで推進していく。